

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

遠足、移動教室、修学旅行等で班行動を行っている最中、大きな揺れが発生。児童・生徒は、発生予定時刻の午後2時10分になったら、各自の安全を確保するために、どのように避難行動を取るべきか考え、班内で確認し合う。その後、班ごとにまとまって、事前に指定されている避難場所に避難する。本部は、「災害用伝言ダイヤル171」を活用し、学校と連絡を取り合う。避難場所に集合後、点呼、安全確認の上、他県等において、児童・生徒だけで被災した場合の安全行動について確認する。

- 【A-カ】他県等への遠足等や宿泊を伴う教育活動中
- 【B-イ】電話等が不通で、情報の収集や伝達ができず
- 【C-(5)】教職員の役割分担を明確化する。

1 時間・場所等

午後2時10分、他県等における校外学習で班行動を行っている最中、大地震が発生する設定

(計20分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

	設定状況等	児童・生徒の動き	教職員の動き
班行動開始前		● 避難訓練の予定時刻になったら、班ごとに避難行動を取ることを再確認する。	● 班行動中に、避難訓練を行うことを伝える発生時間、避難場所について確認する。
2時10分	● 突然、大きな揺れが発生	● ここで、地震が発生したらどのように避難行動を取るべきか考え、班内で共有する。(駅、電車やバスの中、見学先、歩行中)	● それぞれの状況に応じた危険回避行動を考える。
2時15分	● 揺れが収まる。 電話等が不通	● 本部の携帯電話に連絡するが、つながらず。(想定)	● 本部から学校に連絡をするが不通 ● 現地の教員間でも連絡が取れない。 ● 本部は、事前に決めておいた避難場所に集合するよう、「災害用伝言ダイヤル171」に録音する。
2時17分	● 避難開始	● 班員でまとまりしおりに記載された避難場所に向かう。 ● 途中、公衆電話から「災害用伝言ダイヤル171」を聞く。	● 各自、避難場所に向かう。 ● 学校は、本部が録音した「災害用伝言ダイヤル171」を踏まえ、SNSやホームページで情報を伝える。
2時18分	● 避難場所の確保		● 本部設営 ● 校旗等、目印になるものを掲げる。
2時25分	● 人員点呼 急病人発生 行方不明あり	● 到着した班から人員及び負傷の有無を報告する。 ● 班ごとに整列・座って静かに待つ。	● 人員報告、負傷者の有無の確認 ● 教職員の役割分担決定 本部・捜索班・救護班(複数対応) ● 本部は点呼後の状況について「災害用伝言ダイヤル171」で学校に報告
2時30分 (5分間)	● 講評	● 不慣れな場所での避難行動について考える。	● 訓練全般の講評(管理職) ・知らない場所で発災した際の避難行動や安否確認の方法について、再確認する。

※ 「災害用伝言ダイヤル171」は、毎月1日、15日・防災週間(8月30日9:00~9月5日17:00)・防災とボランティア週間(1月15日9:00~1月21日17:00)に活用できる。(蓄積伝言数:10伝言 伝言録音時間:30秒 伝言保存期間:6時間)